

芸術専門学群

School of Art and Design

学士(芸術学)

■ Bachelor of Art and Design

■ 人材養成目的 ■

学際的・国際的な視野と確かな学力を持ち、かつ柔軟な発想力と豊かな表現力を備え、創造的活力に満ちた美術及びデザインの専門家を養成することを目的とします。

■ 求める人材 ■

芸術を追求する熱意のある人材、社会的・国際的観点から創造活動にチャレンジする意欲のある人材、多領域に関わる知識や方法に基づいた美術・デザインによる表現によって社会に貢献する意欲のある人材を求めています。

卒業後の進路

卒業生の数だけ進路はあります

卒業生は、大学院への進学、企業への就職、あるいは独立した作家、デザイナーなど、様々な分野において自己を実現していきます。その一方で、社会から学群・大学院へと、再教育のため大学を訪れる者もいます。海外協定校への留学生の派遣など、芸術専門学群は開かれた大学として、社会との絶え間ない還流を促し、創造の場を活性化していきます。

就職先の例（大学院修了者を含む）

作家・デザイナー等

絵本作家、画家、各種デザイナー、建築家、書家、造形作家、彫刻家、都市計画家、プロデューサー、漫画家 他

企業

NEC、NHK、NHK出版、NTT Docomo、花王、兼松、カリモク家具、サイバーエージェント、サンリオ、シャンソン化粧品、松竹、SEGA、積水ハウス、任天堂、ソニー、ソフトバンクモバイル、ダイハツ、高島屋、デンソー、電通、東芝、凸版印刷、戸田建設、トヨタ自動車、日建設計、日産自動車、日本航空、乃村工藝社、パナソニック、バンダイナムコ、フレーベル館、ベネッセ、ホンダ、三越伊勢丹、森永製菓、リクルート、ロレアルジャパン 他

行政・自治体

国土交通省、特許庁、都市再生機構、横浜市、千葉市、つくば市、土浦市 他

大学教員・学校教員

筑波大学、東京藝術大学、東京学芸大学、千葉大学、信州大学、岡山大学、広島大学、高知大学、熊本大学、鹿児島大学、公立はこだて未来大学、秋田公立美術大学、多摩美術大学、京都精華大学、福岡教育大学、筑波大学附属駒場中・高等学校、茗溪学園中・高等学校、上野高等学校、他各県の高등학교 他

学芸員・研究員

福島県立美術館、茨城県近代美術館、東京国立博物館、東京国立近代美術館、奈良国立博物館、九州国立博物館 他

留学

アメリカ、カナダ、ドイツ、イタリア、スウェーデン、スイス、イギリス、オランダ、中国、台湾、オーストラリア、スペイン 他

教育の質の保証と改善の方策

教育の質の保証

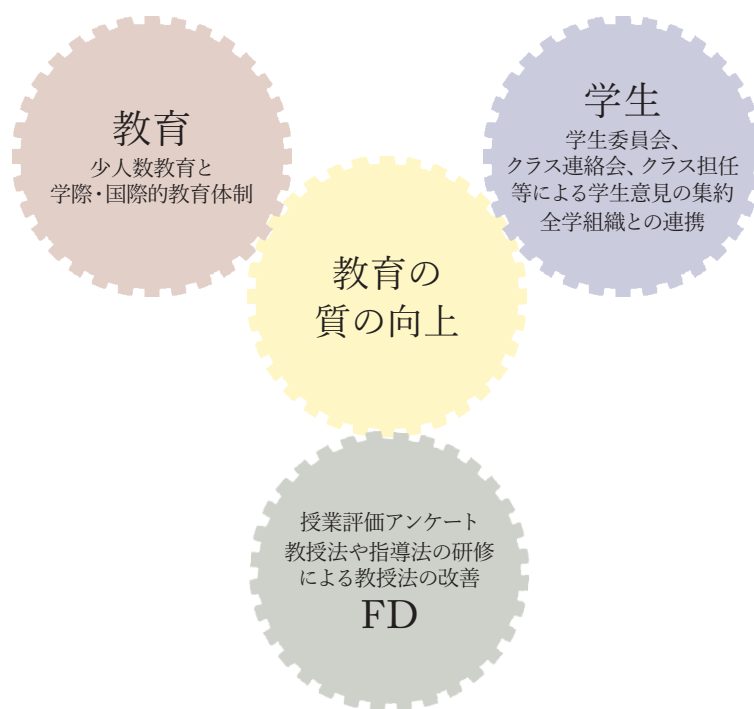
学内外の展覧会・研究会において積極的に作品や研究の発表を行うことを奨めています。その結果、学生は自身の力を認識し、教員は教育を客観視することができ、教育の質の向上につながっています。

教育改善への学生意見の反映

芸術ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会を中心に、学生による授業評価アンケート、教授法や学生指導法の研究・研修を行い、継続的に教育方法を改善しています。

また、芸術専門学群学生委員会、クラス連絡会、クラス担任、卒業研究指導教員によって丁寧に教育等に関する学生の意見集約を行い、全学組織のチューデントサポートセンター、保健管理センターなどと連携して、健康で有意義な学生生活がおくれるように支援しています。

教育の質の保証と改善の方策



学士（芸術学）

Bachelor of Art and Design

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ芸術に関する学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（芸術学）の学位を授与します。

創造的表現力

芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考を、美術・デザインの専門的知識・技能を駆使して適切に表現できる。

問題解決能力

現代における美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出し、習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決できる。

幅広い知識に基づく論理的思考力

学際的・国際的な教育による幅広い視野と専門的な知識・経験に基づき、多様な諸課題に対して論理的な思考ができる。

感性豊かなコミュニケーション能力

形による感性の発信力や感性を共有し協働する能力を培い、豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーションができる。

自律的・社会的な創造活動のための基礎力

社会における芸術の意義と役割を理解し、美術・デザインの専門家として自律的に創造活動を継続できる。

教育課程編成・実施の方針

学士（芸術学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

総合大学における芸術教育の場という特色を活かし、広く学際的な知性（汎用智）と、深い専門能力（専門智）に芸術的感性を統合した統合智を醸成し、創造性に溢れた美術及びデザインの専門家を育成します。

美術・デザインの諸領域の基礎を横断的に履修する専門基礎科目と、専門科目によって芸術の専門的基盤を形成します。さらに、学年や専門分野の枠を超えた横断的科目を配置することによって感性豊かなコミュニケーション能力を養います。

順次性に関する方針

基礎と専門が統合されたカリキュラム

1・2年次では、多様な専門に繋がる基礎科目を必修とし、芸術に関する創造的表現力、問題解決能力、論理的思考力を柔軟に使いこなす基盤を養います。また、専門領域の基礎を学ぶと同時に学際的・国際的な講義・演習を選択的に履修することで専門的な知識の活用力を養います。

3年次以降に、諸領域におけるより高度な専門科目の講義や演習・実習を通じ、多様な諸課題に対する論理的思考力と横断的知識を活かす卓越した表現力や説得力を養い、卒業研究へと結びつけます。

卒業研究

4年間の集大成である卒業研究は学生の自

立を保証するものです。卒業研究の指導では、学生自ら研究テーマを見出し、思考し、表現することにより、美術・デザインの専門家として自律的・社会的に創造活動を行う基礎力を養い、感性溢れる表現能力や感性を共有し豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーション能力を磨きます。基本的にすべての卒業研究は学外の公立美術館等で公開展示され、卒業研究作品集の公刊とともに社会の評価を仰ぎ、優秀作品は顕彰され大学に收藏されます。

実施に関する方針

■ 学生の個性を尊重した教育

芸術教育において学生の個性は最大限に尊重されるべきものです。諸領域における専門教育は可能な限り少人数クラスとし、対話を通して個性を伸ばす指導を行います。

■ 「現場」と繋がる授業

全学の学生・教員や市民と協働する学際的カリキュラムを配置し、企業、行政、美術館、教育現場等との協働や教育交流など、実務と直結した教育を実施し、時代に即した高いコラボレーション力と学際的な視野を持つ学生を育成します。

■ 創造的表現力と論理的思考力の両立

制作と論文執筆の二つを卒業要件とすることで、ものづくりの実践による創造的表現力と、客観的・論理的な思考方法を基盤とした確実な文章表現力の習得をめざします。

■ 世界的視野に基づく創造力の育成

国際交流協定等に基づく交換留学や研究交流、作品交流展、国際インターンシップなどの機会を活用し、国際的コミュニケーション能力と世界的視野に立った創造力を育成します。

学修成果の評価に関する方針

学修の成果を集約または発展させた卒業研究（「論文」および「作品」、もしくは「論文」）によって評価する。また、卒業研究の公開展示や卒業研究作品集の公刊によって学外の評価を仰ぐ。

学際的な知性と深い専門能力に芸術的感性を統合した創造的人材

汎用智と専門智による総合智の醸成

